

2019年12月 (No.366)

## 主な内容とページ

2019 年回顧.....	1
世界全体では 18 年振りの二桁台落ち込み.....	2
貿易紛争に翻弄された 1 年.....	2
開戦初年度と戦争景気.....	3
活発な企業外交、M&A.....	4
最大規模はインフィニオンによるサイプレス買収、歴代では 14 位...4	
IPO は 3 社.....	11
MAKE BUY SELL STRATEGY (SRL だより).....	12

## 2019 年回顧

今年も残すところわずか。どのような年であったか、まとめた。

1. 世界の半導体市場は 18 年振りに二桁台の落ち込みに至った。しかし、赤字企業は少なく半導体企業の不況耐久力は増加しているようだ。
2. 米中の貿易戦争が本格化、半導体のサプライチェーンや需給に影響が出た。しかし、中国の勢いは落ちず、戦争景気の様相をみせている。
3. 日系半導体メーカーは、ソニーの半導体部門が最高業績を更新の一方、パナソニックは半導体から撤退を決めるなど変化がみられた。

## Make Buy Sell Strategy

80年代初めに私が米国の会社に転職した当時、よく聞いたのが“Make Buy Sell Strategy”。当時は半導体で世界最大とみられた IBM で良く使われていたと記憶している。半導体を「作る」「買う」「売る」の選択で、どの方法が最適か。市場で買えるものは、作らず買い、他にないものは作り、さらに外部に売ることによって利益は増す。

わが国ではソニーの半導体が、同じ戦略を打ち出していた時期があり、その片鱗は今もみられる。半導体を作る側が買う側にいるので、売る側は、神経を使う。大事なことは、それぞれ立場が異なっても重要性は何ら変わらないことだろう。

半導体は、最終商品ではなく、それを使うことで最終商品の価値、競争力を高める触媒役といえる。半導体から撤退する企業がみられるが、その是非は、当該企業の最終目的次第と思う。GAF A、BATあるいはテスラどちらも半導体は重要だろうが、自らは作っていない。今後は変わるかもしれないが、すう勢は変わらないだろう。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2019年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

### SRL Monthly Report

2019年12月(毎月1回発行)第30巻12号(通巻366号)

発行元:株式会社 SRL  
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35  
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023  
編集・発行人/大竹 修

### SRL Monthly Report

December 2019, No.366

Semicon Research Ltd.  
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014  
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp  
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2019

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)